

## 令和5年/2023年 目黒会中国地方支部総会及び懇親会 開催報告

報告者: 屋敷誠二

日時: 2023年7月29日(土)16時50分頃より

場所: 実会場/TKP ガーデンシティ PREMIUM 広島駅前カンファレンスルーム 6C、  
オンライン/Zoom 会議 の併用

参加者: 11名(実会場:9名、オンライン:2名、順不同、敬称略)

中国地方支部 藤田 剛(1948 旧新制本科)、屋敷 誠二(1978 通信工学科)、乙吉 清司(1981 電波通信学科)、藤原 真(1981 物理工学科)、川手 幸治(1971 電波通信学科)、古本 政雄(1976 応用電子工学科)、青野 重信(1975 経営工学科)、黒川 和司(1978 機械工学第二学科)

来賓 大学本部 阿部 浩二 理事(教育・国際戦略担当)、目黒会本部 森 淳 会長  
他支部 竹田 智彦(首都圏総支部長 1978 電子工学科)

総会議事:

「令和5年/2023年目黒会中国地方支部総会議案」について支部長より説明。

- ・第1号議案 令和4年度活動報告
- ・第2号議案 令和4年度会計報告
- ・第3号議案 令和5年度活動計画と予算
- ・第4号議案 令和5年度支部役員体制、支部代表代議員について

質疑応答として、令和5年度活動計画と予算にて、懇親会で会費を徴収するのであれば収支として記載すべき、及び目黒会の第2回支部委員会が2月に中国地方支部で開催予定であり計画に記載すべきとの意見があり、計画と予算に反映することとした。

上記を踏まえて、議案は全て承認された。

来賓挨拶・講演:

阿部 浩二 理事より「電通大の近況」の講演。

本学が先頭に立って「理系人材」特に「情報系人材」の育成を進めること、見える形で推進することを強調された。

問題解決能力、シミュレーション能力、因果推論能力の育成・習得を柱とする教育プログラム「Dx2」の新設。

2025入試より「情報 I」を受験科目に導入、CBT(ComputerBasedTesting:コンピュータを用いた試験)の試行。

キャンパスの造り変え「キャンパスマスタープラン」が進行中。共創進化の拠点の整備、民間 PFI の活用、調布市との活動。

本学の広報活動は「お金を使わず、頭と人脈を使う」であり、隈 研吾氏、フワちゃんが大学に来訪され、好評であった。

森 淳 会長より「最近の目黒会について」の講演。

会員の相互交流を活性化するため、「同窓会ラウンジ」を開設して1年となり、その利用、活用の促進を強調された。

7月のオープンキャンパスに併せホームカミングデーが開催され、オープンキャンパスは5,200人、ホームカミングデーは220名の参加があり盛会であった。

会報誌(ゆうメール)の信書問題、会費払込票の利用不能(バーコード誤印刷)問題が発生。

信書問題では会員へのハガキや支部のチラシが同封できなくなり、対応を検討中。

講演後、会長から支部助成金が支部長に授与された。

支部講演:中止(総会の開始遅れにより、講演時間が取れず。)

記念撮影:実会場およびオンライン参加の方との集合写真を撮影。

懇親会:会場を近く中華料理店に移して、18時30分より開催。

前会長の乾杯の音頭により会を開始。4年ぶりの対面開催でもあり、歓談で盛り上がった。

当日に開催された鳥人間コンテストに参加した電通大の U.E.C.wings の飛行結果が紹介され、自己記録の更新に皆さんも祝福された。

懇親の時間はまたたく間に過ぎてしまい、参加された方の自己紹介および写真撮影が行えなかった。

その他:

今回の総会は支部長の遅刻により、開始が大幅に遅れて参加された方にご迷惑をおかけし、申し訳なかった。また支部としては初めての実会場とオンラインの併用開催だったが、準備不足のため会の進行がスムーズに行えず、これも参加された方にご迷惑をおかけした。反省点として改善していく。

久々の対面での開催となったが、お互いの顔が拝見できることで、親密さが増し、話の内容の理解も深まると感じた。またオンラインは参加をしやすくするメリットがあり、今後も併用開催は継続していく。

集合写真:

